

# 景況調査

報告書 NO. 55

平成24年 4月～6月 実績  
平成24年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

## 平成24年度第1四半期(H24. 4～6月)景況調査

1. 調査時点 平成24年6月11日～22日

2. 調査対象

- (1) 対象地区 蒲郡市内  
 (2) 対象(回答)企業 127[120企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	48 (3)	13 (2)	18 (1)	28	13 (1)	7	127 (7)

※ ( )は団体

5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、前年同期比で△12.6、前期実績(1～3月・△19.0)と比較すると6.4ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、前期比については△19.7、前期実績(1～3月・△25.6)に比較すると5.9ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で△18.1、前期実績(1～3月・△31.4)と比較すると13.3ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△26.7、前期実績(1～3月・△27.7)と比較すると1.0ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H24.7～9月)見通し**については△15.7、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △23.4)と比較すると7.7ポイントの上昇であった。

「**製造業**」のうち**食料品**は、原材料価格の上昇を経営上の問題に上げる企業が目立つ。**織物**は、ジャガード・インテリア関連は稼働率30～40%前後で大変厳しい。寝装品はかろうじて現状維持。**漁網・ロープ**は、復興需要でロープは繁忙もピークは過ぎた感。漁網は漁獲高低調で厳しい。**鉄工**のうち、工作機械関係は外需で堅調も、欧州の低迷と国内製造業の海外移転を懸念。自動車部品関連は、エコカー対象車種がかなりの生産増。自動車メーカーが海外現地生産に踏み切っており、国内受注競争が激化。**化学・プラスチック**のうち、中国向け輸出が回復傾向にある。プラスチックは、震災の影響下にあった前年同期、前期比で回復傾向も。輸出も回復途上である。

「**建設業**」は、年度当初に比べ公共工事に動きが出つつあるも全般的には低調に推移。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、<産業資材関連>4～6月は秋冬のスタート時期だが、動きがつかめず予測が難しい。省エネ・エコ素材に動きがありそうだが不透明。<インテリア関連>シーズンオフとなり受注量・出荷量とも減少。<寝装関連>天候不順で例年より初夏物の商品導入が遅れたが一段落。クールビズ商品は盛夏を迎えていないので動きはいま一つ。梅雨明けに期待。<衣料関連>天候不順で春夏の売行低調。輸入物も在庫過剰気味。合織・ニットへのトレンド移行で受注量が減少している。

「**小売業**」は、売上が減少・停滞。生鮮食品は冬の異常気象で価格が高騰。家電販売店では、エコポイント終了後に半年ほど売上が落ち込んだが、4月あたりから少しずつ回復傾向。

飲食は、さほど変化なし。ランチは入るが、夜は予約客が大半。「あじさい祭」「がまコン」等の地域イベントが好感触。今後にも期待。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は、国内で盛況な関東(ディズニー・スカイツリー)、九州エリア(新幹線開通等)との狭間で中部エリアの集客は伸び悩み。蒲郡だけでなく広域のエリア連携で打開を図りたい。

「**運輸通信業**」**貨物輸送**のうち、国際情勢の変化により、高騰した原油価格もやや落ち着き90ドル台で推移。米国景気、欧州債務問題、中東情勢、投資家の動向を注視している。**バス業界関係**昨年比で動きは出ているが、競争激化で単価が下落。季節のイベントや東京スカイツリー等の目玉商品もあるが、インターネットを通じた直接予約により旅行代理店の利用が減少。

**設備投資状況**は、31事業所(45件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は32事業所(43件)が設備投資を計画している。

**経営上の問題点**では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、原材料(燃料)高、消費者ニーズの変化の対応が項目別で上位を占めていた。

**当地区において** 水面下ではあるものの全業種総合判断でマイナス幅が縮小。回復の兆しを感じられた。鉄工を中心とした製造業、サプライチェーンの回復による運輸業を中心に動きが出ている。当所としては、アクションプラン推進等により、中小企業相談所はじめ経営支援体制を一層強化し、経済振興を図る所存である。

**全業種(当期実績)**

(DI 単位:%)

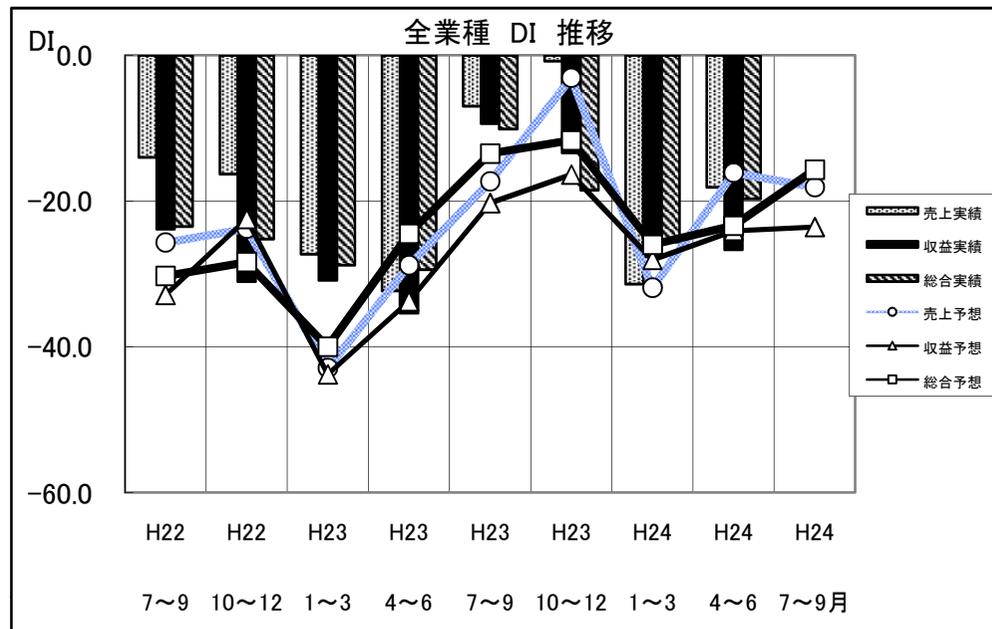
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-7.9	-18.1	-18.1	H23. 4～6月実績	-28.5	-32.3	-32.6	-35.4	-27.1	-29.4	-13.5
②製品・商品在庫	-16.6	-13.4	-9.5	H23. 7～9月実績	-6.2	-7.0	-18.7	-9.4	-11.0	-10.1	-11.7
③資金繰り	-8.6	-16.6	-15.8	H23. 10～12月実績	-14.1	-0.8	-23.7	-13.4	-14.8	-18.5	-26.0
④採算(収益)	-18.9	-26.7	-23.6	H24. 1～3月実績	-7.3	-31.4	-21.9	-27.7	-19.0	-25.6	-23.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.2	11.0	0.0	H24. 4～6月実績	-7.9	-18.1	-18.9	-26.7	-12.6	-19.7	-15.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.6	-19.7	-15.7								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-14.0	-16.3	-27.3	-32.3	-7.0	-0.8	-31.4	-18.1	-18.1
収益	-23.9	-31.1	-30.9	-35.4	-9.4	-13.4	-27.7	-26.7	-23.6
総合	-23.5	-25.2	-28.8	-29.4	-10.1	-18.5	-25.6	-19.7	-15.7

◎DI (ディフュージョン・インデックス 業況判断指数)について  
DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少)      採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)  
製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加)      従業員数 :DI=(増加)ー(減少)  
資金繰り :DI=(好転)ー(悪化)      業況(総合判断) :DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き  
DIが0 ⇒ 景気横ばい  
DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上      DI 6~49%      DI 5~-5%  
             
DI -6~-49%      DI -50%以下

## 6. 業種別報告

### 製造業

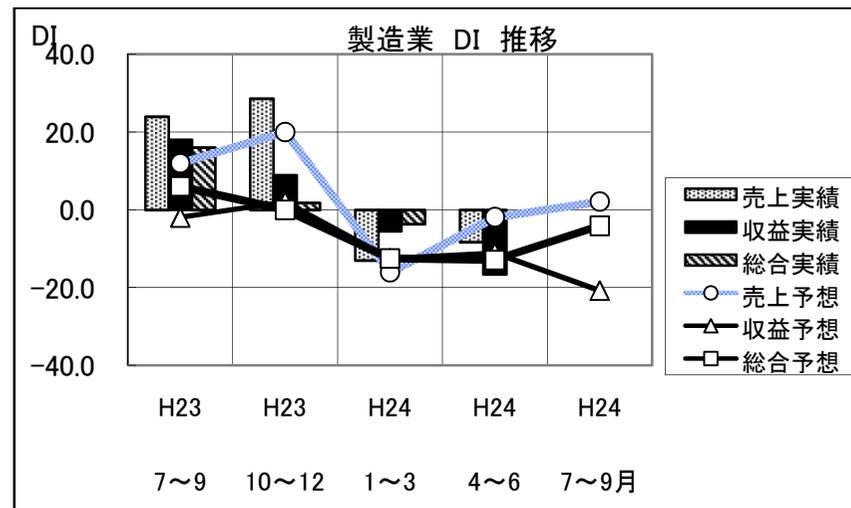
売上DI値は△6.6、前期実績1～3月期(△13.0)に比して4.4ポイントの上昇、収益DI値は△16.7、前期実績1～3月期(△5.6)に比して11.1ポイントの下降、総合判断DI値は0.0、前期実績1～3月期(△3.7)に比して3.7ポイントの上昇と、売上・総合は改善傾向、収益は悪化傾向である。

向こう3カ月の見通し 売上は改善も、収益・総合は下降傾向である。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	14.6	-8.3	2.1
②製品・商品在庫	-14.5	-16.6	-10.4
③資金繰り	4.2	0.0	-8.3
④採算(収益)	-10.4	-16.7	-20.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	37.5	22.9	6.2
⑥貴社の業況(総合判断)	8.4	0.0	-4.1



### <業況判断DIの推移>

	4～7月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	24.0	28.6	-13.0	-8.3	2.1
収益	18.0	8.9	-5.6	-16.7	-20.8
総合	16.0	1.8	-3.7	0.0	-4.1

### [食料品]

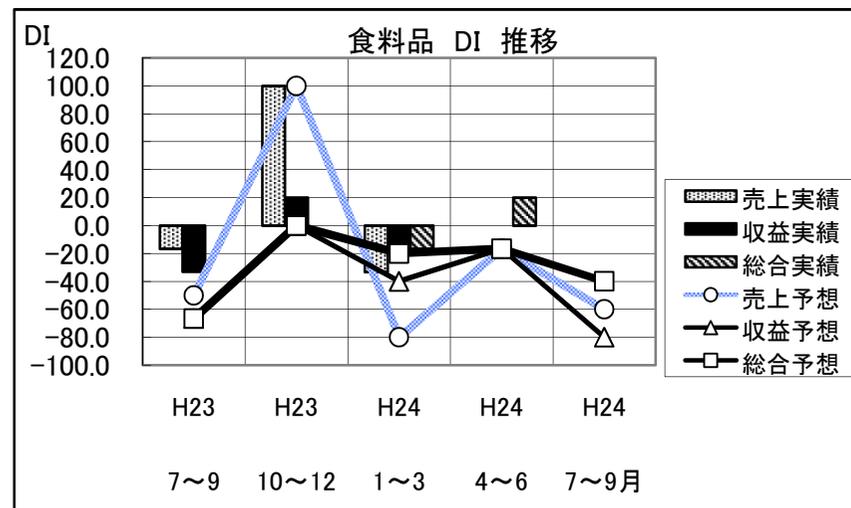
売上は、前期比DI値は0.0%、前年同期比でもDI値0.0%と横バイ。収益でも、前期比DI値は0.0%と横バイ、前年同期比ではDI値△40.0%と悪化。原材料価格の上昇を経営上の問題に上げる企業が目立つ。総合判断では前期比DI値は20.0%と改善しているが、前年同期比ではDI値△20.0%と悪化しており厳しい状況が続いている。

向こう3カ月の見通し 売上はDI値△60.0%、収益DI値△80.0%、総合判断DI値△40.0%と業況は厳しくなることが予想される。国内の食品業界は、海外製品との価格競争にさらされており、原材料コストの負担感に加えて、今後海外生産への依存が強まることが懸念される。こうした環境下で海外への販路拡大を目指し、地域性を売りにした商品開発に力を入れている企業も見られ、今後地産食材を活用していく動きが期待される。

### (食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	-60.0
②製品・商品在庫	-60.0	-60.0	-40.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-40.0	0.0	-80.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	40.0	60.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	20.0	-40.0



### <業況判断DIの推移>

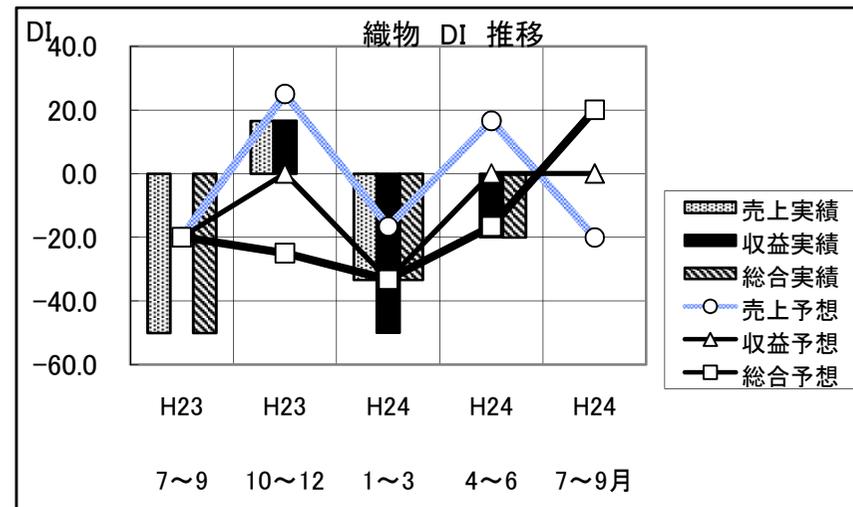
	4～7月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-16.7	100.0	-33.3	0.0	-60.0
収益	-33.3	20.0	-16.6	0.0	-80.0
総合	0.0	0.0	-16.6	20.0	-40.0

## [織物]

ジャガード・インテリア関連は壊滅的で稼働率は30~40%前後。寝装品はかろうじて現状維持である。

向こう3カ月の見通し ジャガード・インテリア関連は引き続き低調。リーマンショック時以上に悪化しており、稼働率も40%程度で推移する見込みである。

	(DI 単位:%)		
	前年同期比 平成23年4月~6月 に比べて	前期比 平成24年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	-20.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-20.0
③資金繰り	0.0	-20.0	-20.0
④採算(収益)	-40.0	-20.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-20.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-20.0	20.0



<業況判断DIの推移>

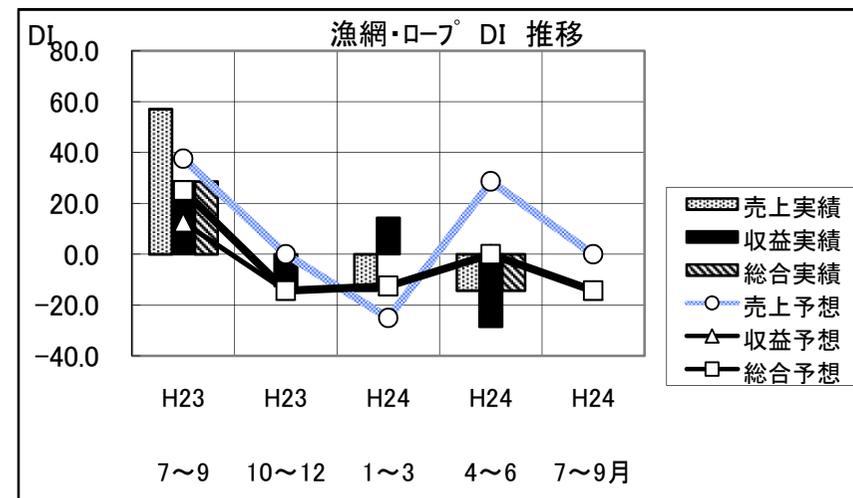
	4~7月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-50.0	16.6	-33.3	0.0	-20.0
収益	0.0	16.6	-50.0	-20.0	0.0
総合	-50.0	0.0	-33.3	-20.0	20.0

## [漁網・ロープ]

ロープは復興需要で活況も、需要のピークは過ぎ出荷量も前年比減少傾向。漁網は水温低下、放射能の影響もあってか漁獲高が低調で厳しい。建築、土木等は今後に期待。自動車向けは安定的。

向こう3カ月の見込み 変わらず繁忙も、復興需要は徐々に沈静化する見込み。漁網、土木等の回復に期待される。(繊維ロープ部会)

	(DI 単位:%)		
	前年同期比 平成23年4月~6月 に比べて	前期比 平成24年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-14.3	-14.3	0.0
②製品・商品在庫	-42.9	-28.6	-28.6
③資金繰り	-14.3	0.0	-14.3
④採算(収益)	-42.9	-28.6	-14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	28.6	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-14.3	-14.3



<業況判断DIの推移>

	4~7月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	57.1	0.0	-14.3	-14.3	0.0
収益	28.6	-12.5	14.3	-28.6	-14.3
総合	28.6	0.0	0.0	-14.3	-14.3

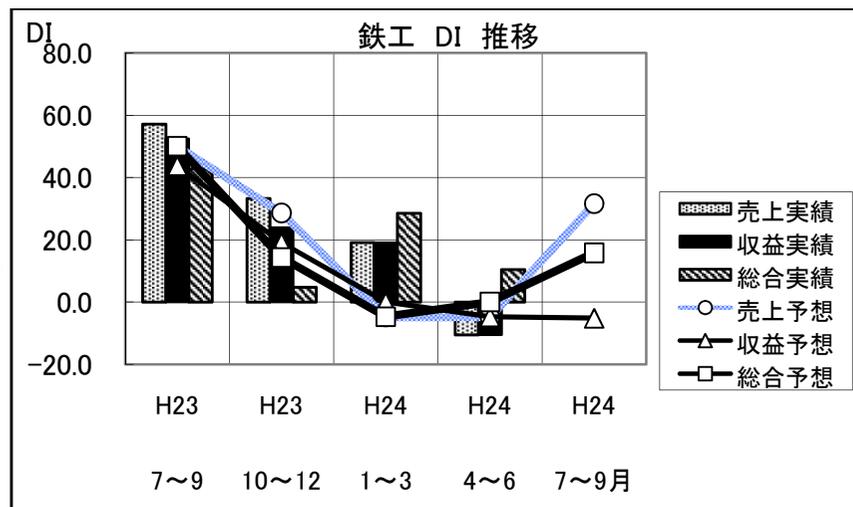
## [鉄工]

<工作機械関係> 国内生産は、依然として高い水準で推移。外需頼みの生産増が続く。受注に関して、円高は収益面に影響ある。受注先は、欧州は低迷。中国・アメリカ市場の需要でしのいでいる。 向こう3カ月の見通し 国内生産は、現状の稼働状況が9月まで続く見込み。欧州金融危機・緊縮財政等の影響で景気の下振れが懸念され、先行きの不透明感が高まっている。国内は、円高と電力不足懸念等で国際競争力が低下し厳しい局面も想定される。減少懸念のあった受注量は横パイで、今後の動向を注視。

<自動車部品関係> 生産に関しては、エコカー対象車両を重点にかなりの生産増。自動車各社は海外生産にカジを大きく切っており、今後は減少傾向。国内生産に海外向け車種は、トヨタでは10%減少が公表された。 向こう3カ月の見通し 来期の生産計画に注視している。今期中は何とか増産体制であるが、円高による問題が発生。すでに各社は、増産計画と海外向け車両の現地生産にシフトしており、受注競争が激化しそうである。(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	47.4	-10.5	31.6
②製品・商品在庫	5.2	-5.2	5.2
③資金繰り	15.8	5.2	-5.2
④採算(収益)	26.3	-10.5	-5.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	47.4	31.6	10.5
⑥貴社の業況(総合判断)	47.3	10.5	15.8



#### <業況判断DIの推移>

	4~7月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	57.2	33.3	19.1	-10.5	31.6
収益	52.4	23.9	19.0	-10.5	-5.2
総合	42.8	4.8	28.5	10.5	15.8

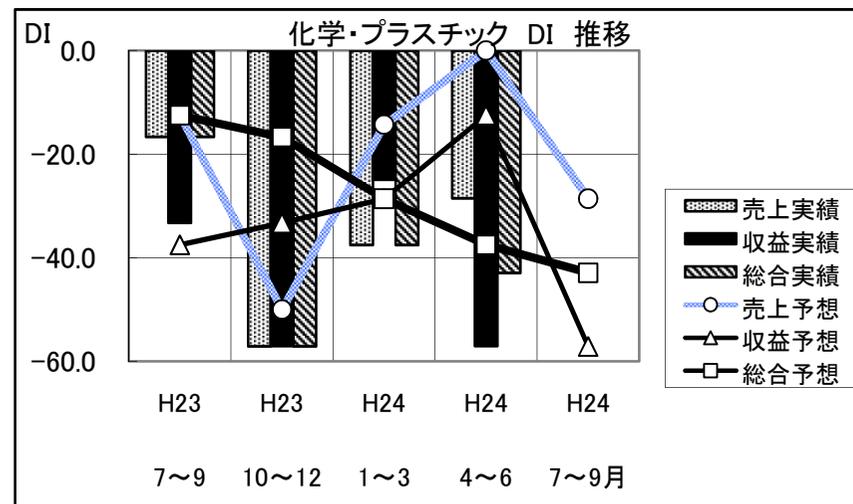
## [化学・プラスチック]

<化学工業> 中国向け輸出が回復傾向にある。 向こう3カ月の見通し 原油高騰も沈静化しつつあるが、中国景気の先行きを懸念。

<プラスチック> 生産額・売上額とも、震災の影響下にあった前年同期、前期比で回復した。また、輸出も回復途上であった。 向こう3カ月の見通し 今期同様の堅調な推移を見込んでいる。(化学部会)

### (化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-14.3	-28.5	-28.6
②製品・商品在庫	-28.6	-28.6	-14.3
③資金繰り	-28.6	-28.6	-28.6
④採算(収益)	-42.8	-57.1	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	42.8	28.6	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.6	-42.9	-42.9



#### <業況判断DIの推移>

	4~7月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-16.6	-57.1	-37.5	-28.5	-28.6
収益	-33.3	-57.1	-25.0	-57.1	-57.1
総合	-16.6	-57.1	-37.5	-42.9	-42.9

## 建設業

売上DI値は△38.4、前期実績1～3月期(△41.7)に比して3.3ポイントの上昇、収益DI値は△53.8、前期実績1～3月期(△41.7)に比して12.1ポイントの下降、総合判断DI値は△53.8、前期実績1～3月期(△50.0)に比して3.8ポイントの下降。売上は改善も、収益・総合で悪化傾向が見られる。依然として、全て水面下の厳しい状況が続いている。年度当初に比べ公共工事に動きが出つつあるも、全般的には低調に推移している。

向こう3カ月の見通し 売上・収益は悪化。総合は僅かに上昇も、全ての面で見通しは厳しい。(建設部会)

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-46.1	-38.4	-69.2
②製品・商品在庫	-7.7	0.0	0.0
③資金繰り	-30.8	-38.5	-30.8
④採算(収益)	-61.5	-53.8	-76.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-23.1	-7.7	-15.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-53.8	-53.8	-46.1

## 卸売業

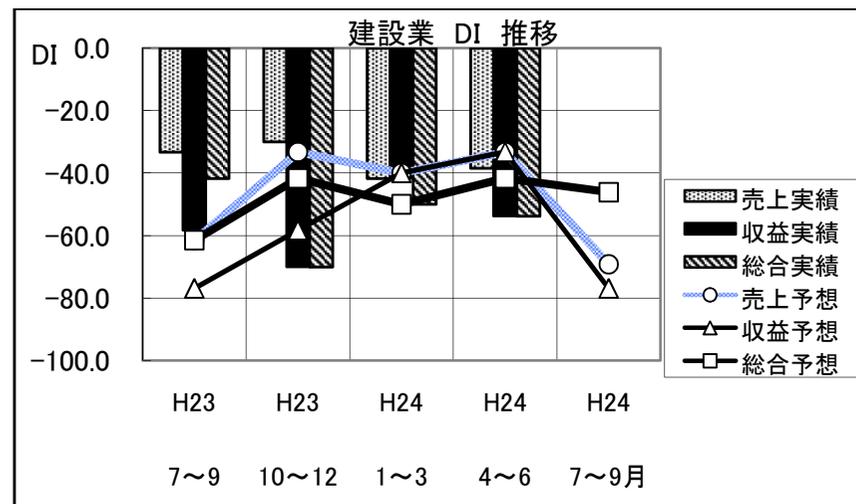
売上DI値は0.0、前期実績1～3月期(△68.4)に比して68.4ポイントの上昇。収益DI値は△11.1、前期実績1～3月期(△21.1)に比して10.0ポイントの上昇、総合判断DI値は△22.2、前期実績1～3月期(△31.5)に比して9.3ポイントの上昇と、売上・収益・総合共に改善傾向であった。

向こう3カ月の見通し 売上は悪化、収益は横バイ、総合は改善傾向にあるが、水面下にある楽観視できない。

## 卸売業

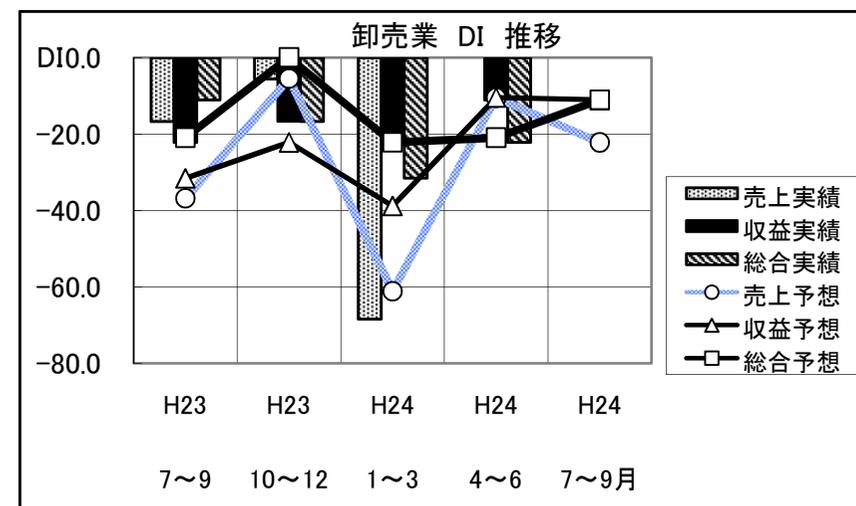
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-16.7	0.0	-22.2
②製品・商品在庫	-55.6	-44.4	-27.8
③資金繰り	0.0	-16.7	-11.1
④採算(収益)	5.5	-11.1	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-11.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-11.1	-22.2	-11.1



### <業況判断DIの推移>

	4～7月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-33.3	-30.0	-41.7	-38.4	-69.2
収益	-58.3	-70.0	-41.7	-53.8	-76.9
総合	-41.7	-70.0	-50.0	-53.8	-46.1



### <業況判断DIの推移>

	4～7月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-16.7	-5.6	-68.4	0.0	-22.2
収益	-22.2	-16.7	-21.1	-11.1	-11.1
総合	-11.1	-16.7	-31.5	-22.2	-11.1

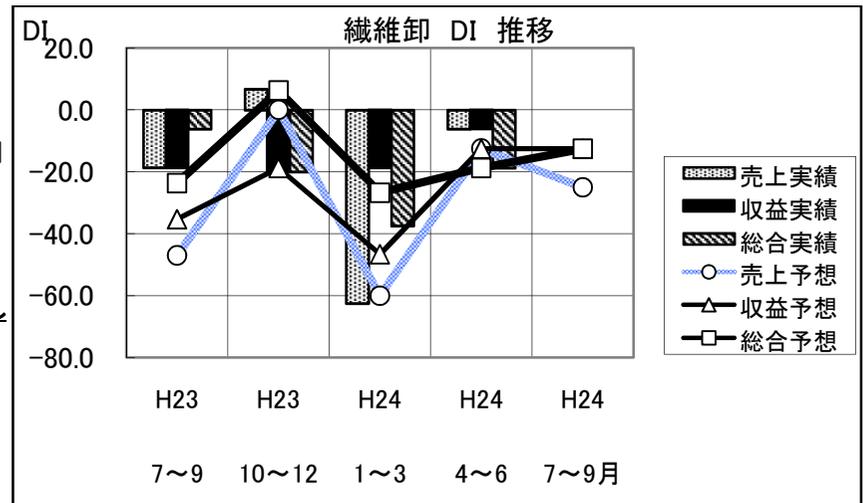
**[繊維卸]**

<産業資材関連>4~6月は秋冬のスタート時期だが、動きがつかめず予測が難しい。省エネ・エコ素材に多少の動きがありそうだが、はっきりとせず。向こう3カ月の見通し 復興需要も大きな期待はできず平常化しつつある。厳しい状況が予測される。<インテリア関連>シーズンオフとなり受注量・出荷量とも減少。向こう3カ月の見通し 加工納期がかかるため、秋冬分を早期受注し生産を開始。新柄・秋冬の販売に向け、8月以降は出荷量が増加。<寝装関連>天候不順で例年より初夏物の商品導入が遅れたが一段落。クールビズ商品は盛夏を迎えていないので動きはいま一つ。梅雨明けに期待。向こう3カ月の見通し 例年秋冬物出荷時期は遅れ気味。7月は夏物最盛期。8~9月上旬夏物バーゲン、秋冬は初回9月中旬の出荷。売上の4~6月と変わらず。暖冬傾向にあり年々秋冬シーズン商戦の期間は短期化。<衣料関連>天候不順で春夏の売れ行きが低調。輸入物も在庫過剰気味である。トレンドが合成繊維・ニットに移行で受注量が減少。原材料(原糸生機)の下落により収益も下降傾向。向こう3カ月の見通し 端境期に向かう為、原料の高い在庫を圧縮し収益を確保したい。秋物も直近まで動きが鈍い見込み。(繊維部会)

**(繊維卸)**

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月~6月 に比べて	前期比 平成24年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-18.7	-6.2	-25.0
②製品・商品在庫	-62.5	-50.0	-31.3
③資金繰り	0.0	-18.8	-12.5
④採算(収益)	12.5	-6.2	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-6.2	-6.3	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-6.3	-18.8	-12.5



<業況判断DIの推移>

	4~7月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-18.7	6.7	-62.5	-6.2	-25.0
収益	-18.8	-20.0	-18.8	-6.2	-12.5
総合	-6.2	-20.0	-37.5	-18.8	-12.5

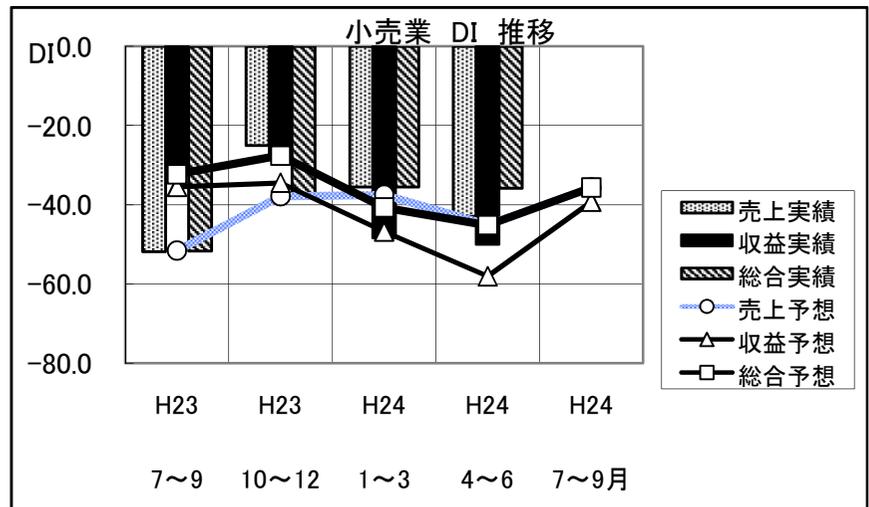
**小売業**

売上DI値は△42.9、前期実績1~3月期(△35.5)に比して7.4ポイントの下降。収益DI値は△50.0、前期実績1~3月期(△48.4)に比して1.6ポイントの下降、総合判断DI値は△35.8、前期実績1~3月期(△35.5)に比して0.3ポイントの下降と、売上・収益・総合とも悪化傾向が見られた。向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合判断ともに改善傾向にあるが依然として水面下で厳しい見通し。お客様の買い渋りなどにより、売上が減少・停滞。生鮮食品では、冬の異常気象で価格が高騰し、品質もあまり良くない。また、原発の風評被害により、北関東及び南東北の産地の品物の流通が極端に少ない。家電販売店では、エコポイント終了後に半年ほど売上が落ち込んだが、4月あたりから少しずつ回復傾向。向こう3カ月の見通し 7月からの見通しも厳しいという声が多いが、夏季のボーナス・贈答時期にあり、各商店の売上が回復するよう期待している。(商業部会)

**小売業**

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月~6月 に比べて	前期比 平成24年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-32.1	-42.9	-35.7
②製品・商品在庫	-7.1	-3.6	-7.1
③資金繰り	-28.6	-42.9	-35.7
④採算(収益)	-39.3	-50.0	-39.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-3.6	3.5	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-32.2	-35.8	-35.7



<業況判断DIの推移>

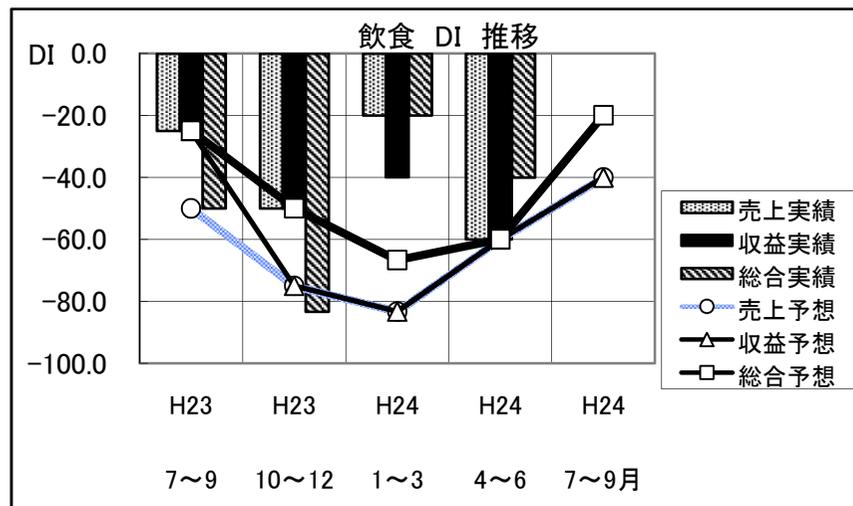
	4~7月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-51.8	-25.0	-35.5	-42.9	-35.7
収益	-31.1	-28.2	-48.4	-50.0	-39.3
総合	-51.7	-37.5	-35.5	-35.8	-35.7

## 【飲食】

全体的にさほど変化はない。ランチは入るが、夜は予約客が大半。「あじさい祭」までは観光客が地元飲食店に立ち寄って貰える傾向にある。今後も継続して頂きたい。蒲郡駅前で婚活イベント「がまコン」が行われ地元が活気づいた。地元飲食店でイベントを知らなかった店舗もあったが、このような動きを拡大して欲しい。今後も協力していきたい。

**向こう3カ月の見通し** 地元客はさほど変化が無いが、観光客が増えるシーズンなので立ち寄って貰えるよう努力していきたい。「ぐるら」(東三河の飲食店スタンプラリー)が本年度も実施されるが、蒲郡メヒカリ等をPRする良い機会。昨年店先に配置したパンフレットは知らぬ間に無くなっていましたので、関心のある取組と感じている。少しでも多くの人々が蒲郡で食事して貰えるように努めていきたい。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

	(DI 単位:%)		
	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	-60.0	-40.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-20.0	-40.0	-40.0
④採算(収益)	-40.0	-60.0	-40.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	20.0	20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-40.0	-20.0



<業況判断DIの推移>

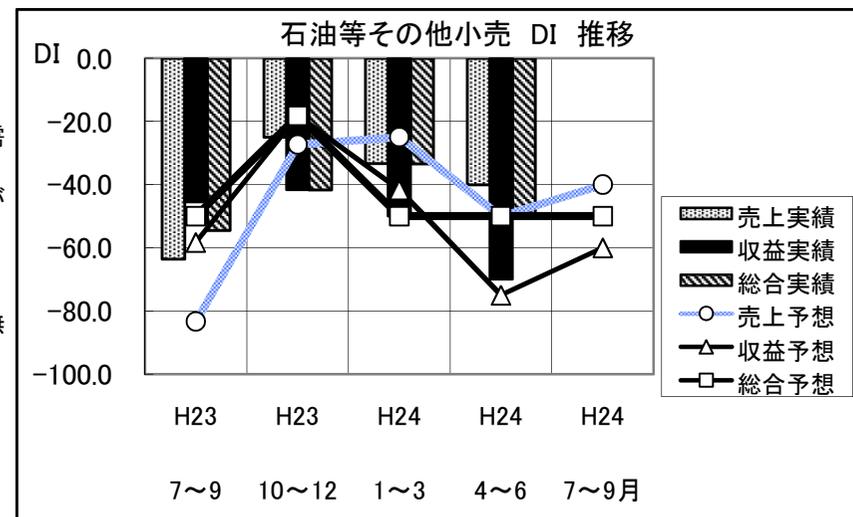
	4~7月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-25.0	-50.0	-20.0	-60.0	-40.0
収益	-25.0	-50.0	-40.0	-60.0	-40.0
総合	-50.0	-83.3	-20.0	-40.0	-20.0

## 【石油等その他小売】

価格動向で見ると、4月には100ドル台で推移するも、5月に入りOPEC増産観測、米4月分雇用統計悪化、スペイン・ギリシャ等の欧州債務問題懸念の再燃等の売り材料が相次ぎ、一時は89ドルに下落。足元では90ドル台で推移している。需要サイドについてみると、1~3月期の先進国の原油需要は前年比△1.7%。日本では火力発電用原油需要で前年比8.0%と伸びたが、米国・欧州での需要減が影響。今後、先進国では、高いエネルギー効率や環境対策など構造的要因もあり、景気回復下でも原油需要の伸びは小幅なものに留まる見込み。引き続き、アジア新興国が増加の牽引役となろう。供給面では、イラン・シリア・イエメン等の政情不安はあるも、イラク・リビアの回復や他OPEC諸国の増産もあり緩やかな増産見込み。

**向こう3カ月の見通し** 原油価格の見通しでは、欧州不安、世界景気の下振れ観測、投資家のリスク回避姿勢等で値動きはある見込み。今後、世界景気は緩やかな回復を続けるも、需要サイドからの価格押し上げ圧力はさほど無い。中東情勢の変化で供給懸念が高まると、再度100ドル前後での推移となるであろう。(エネルギー部会)

	(DI 単位:%)		
	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-40.0	-40.0
②製品・商品在庫	-20.0	-20.0	-10.0
③資金繰り	-30.0	-40.0	-40.0
④採算(収益)	-60.0	-70.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-50.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	4~7月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-63.6	-25.0	-33.3	-40.0	-40.0
収益	-45.5	-41.7	-50.0	-70.0	-60.0
総合	-54.5	-41.7	-33.4	-50.0	-50.0

## サービス業

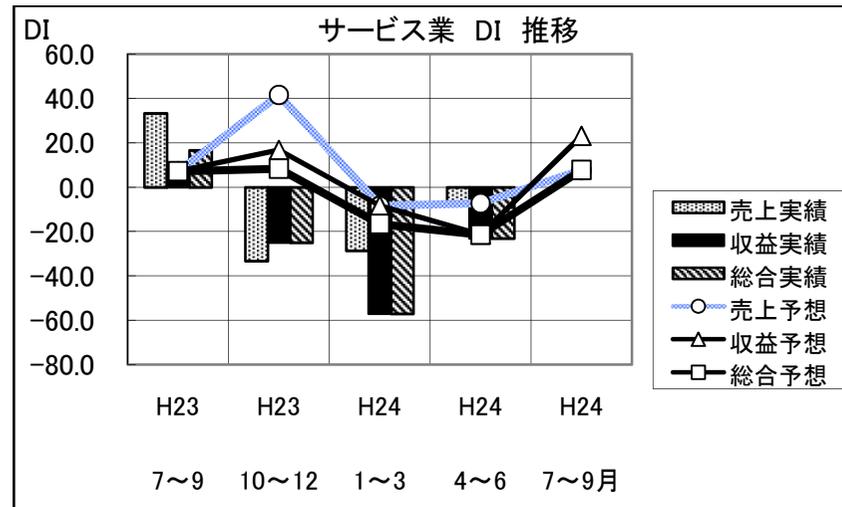
売上DI値は△7.7、前期実績1～3月期(△28.6)に比して20.9ポイントの上昇、収益DI値は△23.1、前期実績1～3期(△57.1)に比して34.0ポイントの上昇、総合判断DI値は△23.1、前期実績1～3月期(△57.1)に比して34.0ポイントの上昇と、売上・収益・総合とも改善傾向であった。

向こう3カ月の見通し 夏季を迎えて、売上・収益・総合判断とも改善傾向にあり期待される。

### サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	15.4	-7.7	7.7
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-7.7	-7.7	7.7
④採算(収益)	-15.4	-23.1	23.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	30.8	15.4	15.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-15.4	-23.1	7.7



#### <業況判断DIの推移>

	4～7月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	33.3	-33.3	-28.6	-7.7	7.7
収益	8.3	-25.0	-57.1	-23.1	23.1
総合	16.6	-25.0	-57.1	-23.1	7.7

## [旅館]

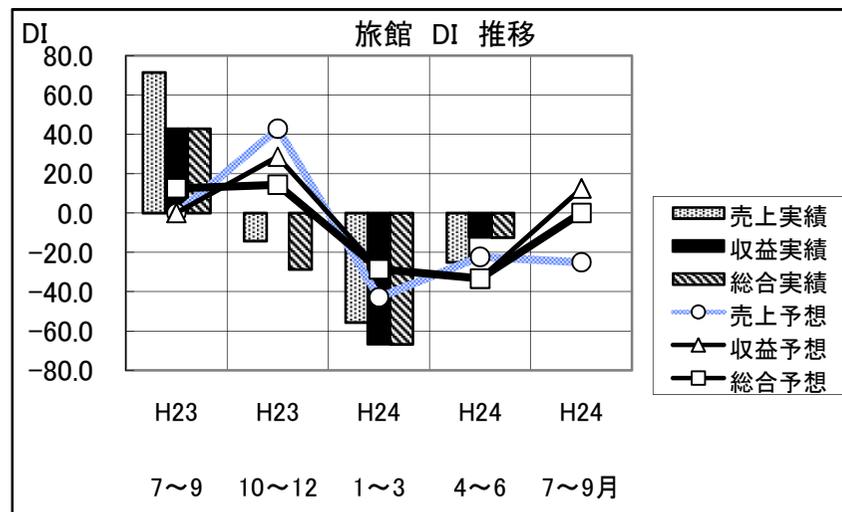
4月は例年並み。GWだが5～6月は全体的に低調。これは蒲郡だけでなく中部地方全体で表れている傾向。これは東京ディズニーランド、スカイツリーの話題性で関東圏が好調。九州新幹線の九州地方も引き続き好調。関西地方も安定した需要があり、中部地方がやや話題性を欠いた事も影響したと思われる。リニア館・科学館等で安定した需要がある名古屋圏、芝桜等が堅調な奥三河等とも連携した広域的な魅力で、観光客誘致を図りたい。

向こう3カ月の見通し 個人旅行が主流となった現在では間際予約が多く、見通しは立てづらい。震災の影響もあった昨年は、関東圏の旅行客が多くあったが、今年は関東エリアに話題性豊かな施設が多く、国が東北地方への旅行を後押ししており見通しは不透明。また、今年から「がまごおり若旦那's」が活動を開始するが、若者による地域の情報発信力も強化していきたい。また、来年度の伊勢神宮式年遷宮、豊川市のB-1グランプリ等に絡めた誘客も合わせて進めていきたい。(観光部会)

### (旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	12.5	-25.0	-25.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	12.5	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	-12.5	12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	37.5	12.5	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-12.5	0.0



#### <業況判断DIの推移>

	4～7月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	71.4	-14.3	-55.6	-25.0	-25.0
収益	42.8	0.0	-66.7	-12.5	12.5
総合	42.8	-28.6	-66.7	-12.5	0.0

## 運輸通信業

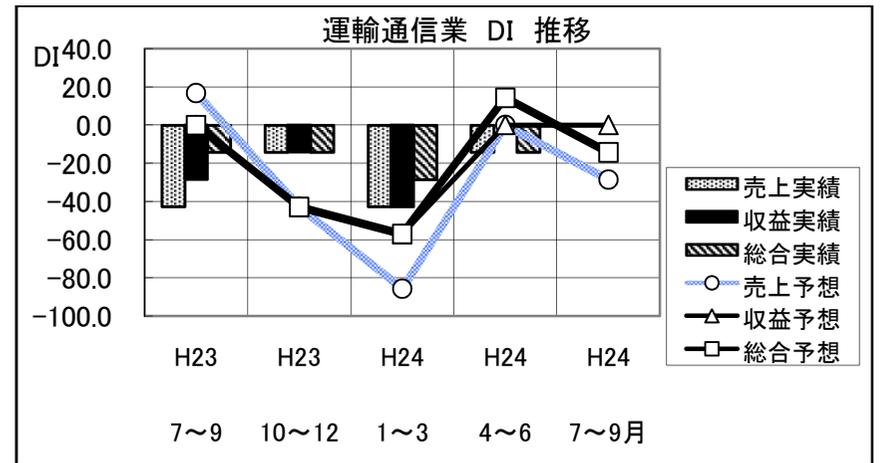
売上DI値は△14.3、前期実績1～3月期(△42.8)に比して28.5ポイントの上昇、収益DI値は△0.0、前期実績1～3月期(△42.9)に比して42.9ポイントの上昇、総合判断DI値は△14.3、前期実績1～3月期(△28.6)に比して14.3ポイントの下降と、売上・収益とも改善傾向である。

向こう3カ月の見通し 売上は悪化傾向も、収益・総合は横バイである。

## 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	-14.3	-14.3	-28.6
②製品・商品在庫	-14.3	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	-14.3
④採算(収益)	14.3	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	-14.3	-14.3



### <業況判断DIの推移>

	4~7月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-42.8	-14.3	-42.8	-14.3	-28.6
収益	-28.6	-14.3	-42.9	0.0	0.0
総合	-14.3	-14.3	-28.6	-14.3	-14.3

## [旅客・貨物輸送・水運]

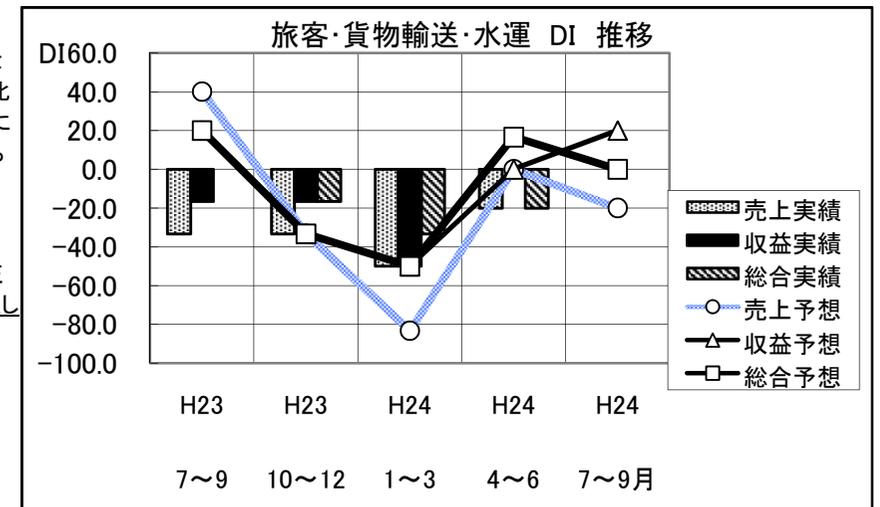
<貨物輸送> 自動車生産は国内外における販売が堅調に推移し、県内部品メーカーの出荷が増加。荷動きが活発な中で、倉庫が不足気味。輸送量全体では、大震災の影響下にあった昨年から何とか持ち直している。輸出は前年同期比で微減。輸入は微増傾向。木材等の原材料は対前年微増が続く。完成車の輸出台数は、保管施設の工事遅延で低調に推移していたが、5月末に完成。昨年比で大きく増加。向こう3カ月の見通し 復興需要等を背景に国内の荷動きは持ち直すものの、欧州債務危機と円高の影響で、先行き不透明な状況。新規住宅着工件数が低調に推移する見込みで、木材等の原材料輸入は横バイ。輸出は、欧州債務危機・中国生産・輸出の鈍化で、鈍い動きが予想される。完成車輸出は、保管施設の完成もあり、前年同期で2.5倍に回復する見込み。

<バス業界関係> 昨年比で動きは出ているが、競争激化で単価が下落。季節のイベントや東京スカイツリー等の目玉商品もあるが、インターネットを通じた直接予約により旅行代理店の利用が減少しており伸び悩み。向こう3カ月の見通し 夏休みを迎えて個人・団体とも動きが出てくる時期。各種企画商品により、売上確保に努めたい。(運輸交通港湾部会)

## (旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年4月～6月 に比べて	前期比 平成24年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成24年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-20.0	-20.0
②製品・商品在庫	-20.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	0.0	0.0	20.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	20.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	20.0	-20.0	0.0

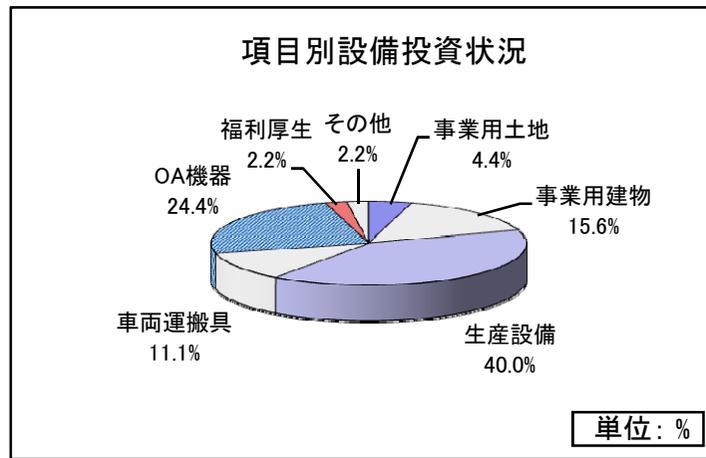
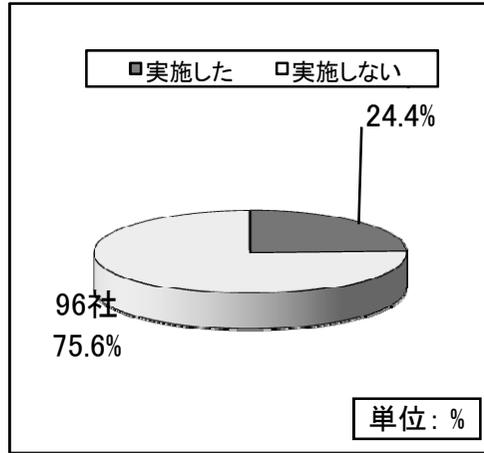


### <業況判断DIの推移>

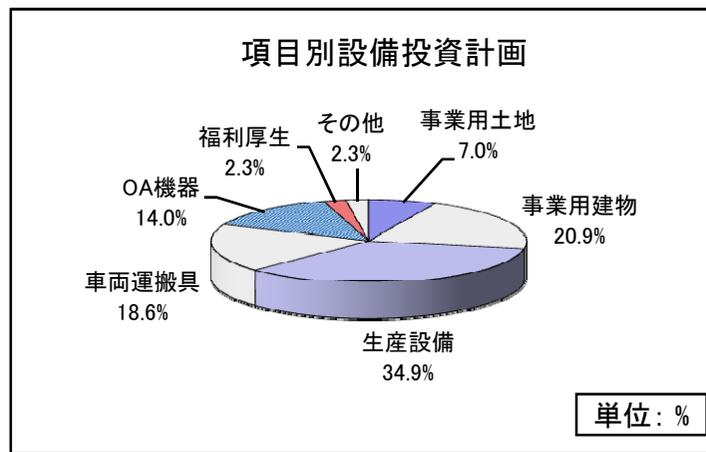
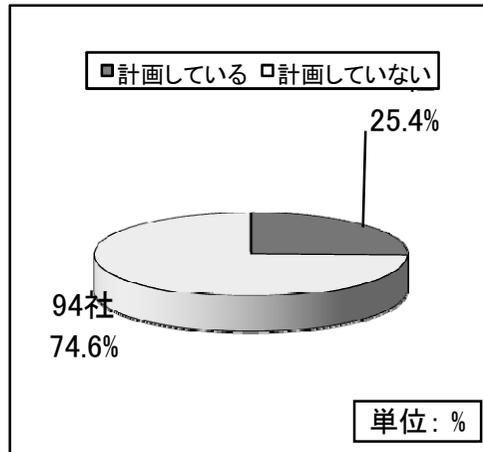
	4~7月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-33.4	-33.3	-50.0	-20.0	-20.0
収益	-16.6	-16.6	-50.0	0.0	20.0
総合	0.0	-16.6	-33.3	-20.0	0.0

## 7. 設備投資動向

＜今期(H24. 4～6月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H24. 7～9月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	3
事業用建物	7	9
生産設備	18	15
車両運搬具	5	8
OA機器	11	6
福利厚生	1	1
その他	1	1
計	45	43

(単位：件)

◎今期(H24.4～6月)、来期(H24.7～9月)設備投資実施、計画動向

(単位：事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H24.4～6月)	31	19	1	5	2	4	0
2. 来期 (H24.7～9月)	32	20	1	3	2	3	3

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 127 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	87 68.5%
2	利幅の縮小	65 51.2%
3	競争激化	59 46.5%
4	原材料(燃料)高	37 29.1%
5	消費者ニーズの変化の対応	20 15.7%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 48 社	売上の停滞・減少 27 社 56.3%	利幅の縮小 26 社 54.2%	原材料(燃料)高 20 社 41.7%
建設業 13 社	売上の停滞・減少 12 社 92.3%	利幅の縮小 12 社 92.3%	競争激化 7 社 53.8%
卸売業 18 社	売上の停滞・減少 13 社 72.2%	競争激化 10 社 55.6%	利幅の縮小 8 社 44.4%
小売業 28 社	売上の停滞・減少 20 社 71.4%	競争激化 16 社 57.1%	利幅の縮小 13 社 46.4%
サービス業 13 社	売上の停滞・減少 8 社 61.5%	競争激化 5 社 38.5%	消費者ニーズの変化の対応 5 社 38.5%
運輸通信業 7 社	売上の停滞・減少 7 社 100.0%	利幅の縮小 4 社 57.1%	原材料(燃料)高 3 社 42.9%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

# 付帯調査(地域データ)

No.55

番号	調査項目	単位	H24. 7報告	基準日	H24. 4報告	基準日	H24. 1報告	基準日	H23. 10報告	基準日	出典
1	人口	人	80,431	H24.7.1	80,498	H24.4.1	80,628	H24.1.1	80,658	H23.10.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳 (日本人のみ)
2	世帯数	世帯	29,566	H24.7.1	29,462	H24.4.1	29,367	H24.1.1	29,319	H23.10.1	〃
3	15才～65才生産人口	人	50,317	H24.7.1	50,613	H24.4.1	50,773	H24.1.1	50,785	H23.10.1	蒲郡市 市民課
4	外国人登録者数	人	2,188	H24.7.1	2,139	H24.4.1	2,067	H24.1.1	2,048	H23.10.1	〃
5	建築確認届出件数	件	129	H23.3～5月	87	H23.12～2月	107	H23.9～11月	130	H23.6～8月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
6	全国完全失業率	%	4.4	H24.5月	4.5	H24.2月	4.5	H23.11月	4.3	H23.8月 (※)	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	3.7	H24.1～3月	3.3	H23.10～12月	3.3	H23.7～9月	4.0	H23.4～6月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
7	全国有効求人倍率	倍	0.81	H24.5月	0.75	H24.2月	0.69	H23.11月	0.66	H23.8月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.62	H24.5月	0.70	H24.2月	0.76	H23.11月	0.64	H23.8月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

(※) 統計数値に、岩手・宮城・福島を除く集計です。

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く)前年比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比% 実質	新車販売台数 (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	500.3		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	509.6		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	498.4		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	497.6		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	502.9		▲ 1.2	-
2001年度	平均 340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	497.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	491.3		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	490.2		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.3		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	501.7		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	507.3		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,060,741	515.5		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,093,519	504.2		▲ 1.9	321.2
2009年1月	277	4.1	0.67		70,688			▲ 5.9	17.4
(平成21年)2月	299	4.4	0.59	▲ 36.9	62,303	115.2	▲ 3.8	▲ 3.5	21.8
3月	335	4.8	0.52		66,628			▲ 0.4	32.3
4月	346	5.0	0.46		66,198			▲ 1.3	16.6
5月	347	5.2	0.44	▲ 37.7	62,805	116.9	1.6	0.3	17.8
6月	348	5.4	0.43		68,268			0.2	24.3
7月	359	5.7	0.42		65,974			▲ 2.0	28.9
8月	361	5.5	0.42	▲ 27.0	59,749	114.7	▲ 0.2	2.6	19.8
9月	363	5.3	0.43		61,181			1.0	32.1
10月	344	5.1	0.43		67,120			1.6	26.3
11月	331	5.2	0.43	▲ 4.8	68,198	124.2	1.9	2.2	29.3
12月	317	5.1	0.43		69,298			2.1	25.0
2010年1月	323	4.9	0.46	20.7	64,951			1.7	23.8
(平成22年)2月	324	4.9	0.47	27.9	56,527	117.9	1.6	▲ 0.5	29.4
3月	350	5.0	0.49	12.7	65,008			4.4	44.3
4月	356	5.1	0.48	32.0	66,568			▲ 0.7	22.2
5月	347	5.2	0.50	16.2	59,911	119.4	1.1	▲ 0.7	22.8
6月	344	5.3	0.52	26.0	68,688			0.5	29.3
7月	331	5.2	0.53	20.8	68,809			1.1	33.3
8月	337	5.1	0.54	38.8	71,972	118.6	0.5	1.7	29.0
9月	340	5.0	0.55	12.7	71,998			0.0	30.8
10月	334	5.1	0.56	20.2	71,390			▲ 0.4	19.3
11月	318	5.1	0.57	17.9	72,838	125.7	0.0	▲ 0.4	20.3
12月	298	4.9	0.57	7.2	74,517			▲ 3.3	17.9
2011年1月	309	4.9	0.61	27.6	66,709			▲ 1.0	18.7
(平成23年)2月	302	4.6	0.62	31.4	62,252	115.3	▲ 1.7	▲ 0.2	25.2
3月	304	4.6	0.63	5.5	63,419			▲ 8.5	27.9
4月	309	4.7	0.61	2.3	66,757			▲ 3.0	10.8
5月	293	4.5	0.61	16.4	63,726	114.6	▲ 0.5	▲ 1.9	14.2
6月	293	4.6	0.63	12.2	72,687			▲ 4.2	22.5
7月	292	4.7	0.64	▲ 2.3	83,398			▲ 2.1	24.1
8月	276	4.3	0.66	1.0	81,986	115.2	1.4	▲ 4.1	21.6
9月	275	4.1	0.67	5.9	64,206			▲ 1.9	31.3
10月	288	4.5	0.67	▲ 5.8	67,273			▲ 0.4	24.7
11月	280	4.5	0.69	3.9	72,635	122.7	▲ 0.2	▲ 3.2	25.2
12月	275	4.6	0.71	2.6	69,069			0.5	22.1
2012年1月	291	4.6	0.73	14.0	65,984			2.3	26.3
(平成24年)2月	289	4.5	0.75	▲ 9.3	66,928	117.0	1.2	2.3	33.3
3月	307	4.5	0.76	8.8	66,597			3.4	49.7
4月	315	4.6	0.79	8.8	73,647			2.6	20.8
5月	297	4.4	0.81		69,638				23.6
6月									31.7

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。